

令和5年 年頭の辞

鉄道部長 犬塚 誠



令和5年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

まずは、新型コロナウイルス感染症の影響の中において、鉄軌道事業者の皆様におかれましては、感染症対策に関するガイドラインに則り、感染対策を講じていただくとともに、車内や窓口等の現場では、献身的に使命と責任を果たしていただいていることにつきまして、心から敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

昨年9月に西九州新幹線が開業いたしました。交流人口の増加による経済的な効果も生まれ、沿線の駅周辺開発も進んでいることから、地元においても開発による新たな賑わいが創出されています。また、本年3月には福岡市地下鉄七隈線延伸区間（天神南駅～博多駅）が開業いたします。開業後は、福岡市南西部の交通渋滞や博多駅へのアクセス改善など地域の活性化が期待されており、九州運輸局としましても開業に向け、必要な取組を進めてまいります。

昨年も台風等による鉄道施設の被害が多数発生しましたが、関係する皆様のご尽力により多くの路線が復旧を果たすことができました。JR日南線の一部区間におきましては、運転を休止しておりますが、今春をめどに復旧する見込みとなっております。

一方、平成28年熊本地震により被害を受けた南阿蘇鉄道、令和2年7月豪雨により被害を受けたくま川鉄道につきましては、現在も一部区間において運転を休止しておりますが、いずれも復旧に向けた工事が鋭意進められており、引き続き全線復旧に向け、支援を行ってまいります。

また、令和2年7月豪雨により甚大な被害を受けたJR肥薩線につきましては、昨年3月に設置した「JR肥薩線検討会議」において、JR九州、熊本県、国の三者により、復旧方法及び復旧後の在り方などの課題について協議を行っているところであり、引き続き関係機関と連携しながら、取り組んでまいります。

人口減少、モータリゼーションの進展さらには新型コロナウイルスなどの影響を受け、鉄道利用者が減少するなど鉄道を取り巻く経営環境は極めて厳しい状況下にあります。そのような状況を踏まえ、昨年、国土交通省では、地方鉄道の置かれた状況について関係者が危機認識を共有し、どのように利便性・持続性の高い地域交通を再構築していくかを検討する「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会」を設置しました。検討会からは、国、沿線自治体、鉄道事業者のそれぞれが、今後取り組むべき方向性等が提言されております。現在、国土交通省では、その提言を受けて、制度面や予算面における具体的な検討を進めているところです。九州運輸局としましては、本省の検討結果等を踏まえ、鉄道事業者や沿線自治体と連携しながら、取り組んでまいります。

輸送の安全確保につきましては、運輸安全マネジメント評価により事業者の自主的

な安全管理体制を構築するとともに、施設、車両の保守管理や運転取り扱いに関する監査・指導を引き続き実施してまいります。併せて、管内の鉄軌道事業者等を対象として「保安連絡会議」を開催するなど事業者への安全意識の高揚と情報の共有化を図ってまいります。そのほか、踏切事故の防止、橋梁・トンネルなどの老朽化対策、鉄道施設のバリアフリー化などの課題につきましては、引き続き補助制度を活用するなど事業者の支援に取り組んでまいります。

鉄軌道事業は地域住民の生活路線であるとともに、観光振興や経済活動など地域社会の基盤として重要な役割を果たしています。鉄軌道事業各社におかれましては、より一層の安全対策を講じ事故防止の推進に務めていただきますようお願いいたします。九州運輸局としましても、安全・安心で快適な輸送サービスの実現に向け、皆様のご理解・ご協力を得ながら様々な課題に取り組んでまいり所存です。

結びに、鉄軌道事業の益々の発展と皆様のご健康・ご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。